

令和7年度公益財団法人新潟市海洋河川文化財団 事業報告

事業概要

【期 間】

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

【概 要】

当財団は公益法人として、令和7年度においても公益法人制度の趣旨に基づき、教育文化の普及啓発事業の充実を図るとともに、新潟市水族館の指定管理業務について、高い水準を維持しつつ安定的かつ効果的な管理運営を遂行し、着実な成果あげた。

水族館事業においては、物価高騰や異常気象、大阪・関西万博の影響など厳しい外部環境下にあったものの、入館者数は549,298人（対前年度比99.0%）を確保し、前年度水準を維持した。加えて、年間パスポートとそのリピーター数も昨年度水準を維持し、市民を中心に継続して来ていただき、安定した来館に繋がった。

普及啓発事業では、野外体験教室やラムサール条約湿地都市連携事業を継続・推進し、環境意識の醸成と地域の魅力を発信した。また、企画展示「SADO」や新規事業「ドリームナイト・アット・ジ・アクアリウム」を開催し、来館のきっかけを新たに生み出し、社会的包摂の推進につなげた。

さらに、教育機関や行政との連携、出張展示等を通じて地域連携を強化したほか、飼育展示では約600種20,000点超の規模を維持し、ゴマフアザラシの誕生やアメリカビーバーなど新規個体の譲受けにより展示の充実を図った。

当財団は、これまで蓄積してきた知識、技術および経験、さらには全国的なネットワークを最大限に活用し、引き続き新潟市水族館の指定管理者として来館者の安全・安心を最優先に、満足度のさらなる向上を確実に実現していく。あわせて、「新潟で最も愛される施設」というビジョンの実現と設置目的の達成に向けて着実に前進する。さらに公益法人としての社会的使命を的確に果たしつつ、内部のガバナンスの充実に努め法人運営のさらなる健全化を推進する。

なお、事業報告の詳細については、次頁以降のとおりである。

【事業名】

公益目的事業

- 1 海洋・河川文化の普及啓発、調査研究及び保護継承事業
- 2 海洋・河川に生息する水生生物とその生息環境の展示及び飼育事業

収益事業

- 1 施設管理に付帯する事業

公益目的事業

1 海洋・河川文化の普及啓発、調査研究及び保護継承事業

【事業目的】

新潟における海洋・河川文化の現状や変遷を調査研究及び情報発信することにより、海洋・河川文化及び海洋・河川等、人との関わり大切さを後世に継承し、併せて地域社会の持続的発展の担い手を育む。

【主な事業内容】

(1) 海洋・河川文化の普及啓発 ※…ラムサール条約湿地都市連携事業 画…新規事業

区 分	名 称	プログラム等	実施日等	参加人数
体験学習	※田んぼ体験	田起こし	5/18	18 人
		田植え	6/1	22 人
		草踏み (1 回目)	6/15	21 人
		草踏み (2 回目)	7/6	24 人
		柵取付及び案山子作り	8/3	19 人
		稲刈り	9/28	24 人
		脱穀	10/12	19 人
		わら細工	11/9	17 人
	野外体験教室	貝の標本づくり	6/21	21 人
		スナガニ観察会	7/5	22 人
		※潟の生きもの観察会	9/21	11 人
講演会	マリンピアカレッジ	イルカとヒトの発声器官の比較	11/2	24 人
		湿地ラボ ハクチョウと新潟	1/17	15 人
		深海サバイバル！極限世界の生きものの秘密	3/21	42 人
	特別講演会	シンポジウム「SADO～世界に誇る自然と文化～」	10/4	34 人
		水族館職員が語る水族館での魚、カニ、イルカの研究	11/29	46 人
各種団体との連携	社会教育連携	※新潟市歴史博物館連携プログラム 舟にのって水草刈りと泥上げ体験	(10/11)	寄生虫の発生により中止
		海のミュージアムサポート事業 海岸清掃	4/26・5/24・7/13・9/15・10/13	451 人

各種団体 との連携	社会教育連携	にいがたダイバーシティネットワーク主催 ジュニア学芸員養成講座 第2回講座	7/27	6人
		にいがたダイバーシティネットワーク主催 第7回ちょ～生き物発表会での発表	12/7	510人
		県立がんセンター新潟病院 小児病棟 ライブ配信	3/23	5人
		蜷りゅうとぴあと連携イベント ヴィジョン管弦四重奏団ミニコンサート	10/30	230人
	学校教育連携	総合学習の受入れ	小学校24校、中学校14校、高等学校6校、その他14校 計58校	1,809人
		実習生の受入れ	大学7校、専門学校5校 計22校	24人
		教育現場への講師派遣	小学校10校、その他2校 計12校	派遣12人
		学校法人新潟青陵学園との包括連携協定関連	青陵大学学園祭（青空祭）への出展 10/25・26	約760人
			アカペラサークルによるクリスマスミニライブ 11/22	約100人
			お正月プチお楽しみ会 1/12	約150人
	出張展示	ばんえつ発見の旅サポートイベントへの参加	6/7・8	約1,200人
		にいがた環境フェスティバル2025への出展	11/19	約250人
		アルビレックス新潟ホームゲーム市町村デーへの出展	4/13,8/23	約400人
		田ノ浦うみまつりへの出展	8/9	68人
	行政機関連携	第九管区海上保安庁による灯台記念日展示イベントへの協力	10/25,26	965人
		北陸信越運輸局との共催「海の月間」パネル展	7/19-8/17	—
		新潟市動く市政教室ガイドツアー	10/25	22人

(2) 海洋・河川文化の調査研究

区分	名称	内容
研究発表	J A Z A (日本動物園水族館協会) 関連	○海獣技術者研究会での研究発表 ・カマイルカの出産前後の行動観察における iPad の活用
	J A A (日本水族館協会) 関連	なし
	その他研究会・学会	○ゴリ研究会での発表 ・新潟県の地すべり地を中心としたため池の生物相及び魚類層について ○日本野生動物医学会大会での発表 ・フンボルトペンギンにおける慢性消化管クロストリジウム症からの鉄欠乏症性貧血 ○日本ウミウシ研究会 ・新潟県柏崎市におけるウミウシ類の出現状況とその年変動 ○日本生態学会大会 ・ため池と河川との連結性が水棲動物相に与える影響－新潟県上越市を事例として－
各種会議	J A Z A 関連	(全国) 通常総会、水族館技術者研究会、設備会議、生物多様性委員会、海獣技術者研究会、イルカ会議など (ブロック) 園館長会議、動物園水族館合同技術者会議、事務主任者会議など
	J A A 関連	通常総会、トレーニング勉強会、水族館研究会 など
	その他会議	新潟県博物館協議会、名古屋港水族館主催「ペンギン共同研究のための研修」、大都市動物園水族館事務主管者会議など
委託事業	水産庁委託	アカムツの親魚養成技術の開発
共同研究	J A Z A	ペンギン類のアニマルウェルフェアに配慮した飼育施設基準策定のための研究
	北海道大学	ハンドウイルカ遺伝的構造解析
	新潟大学	イルカから水中で無侵襲的に脳波を記録する方法を確立するための研究
	新潟薬科大学	野生動物の薬物動態に関する研究
	岩手大学	ペンギン類の鳥マラリア感染に関する研究
	日本大学	カマイルカの形態的・遺伝的に異なる 2 集団に関する調査研究
	国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所	コシノハゼの DNA 解析 オサガメ胃内容物に関する調査研究

(3) 海洋・河川文化の保護保全 (生物種の保全を含む)

[新]・・・新規事業

区分	名称	内容	回数
生息域内保全	シナイモツゴ調査	県内の希少淡水魚の生息調査	2 回
	コシノハゼ調査	県内の希少淡水魚の生息調査	4 回
	ホトケドジョウ調査	県内の希少淡水魚の生息調査	1 回
	[新]イトヨ調査	県内の希少魚の生息調査	1 回

生息域内 保全	ハクバサンショウウオ調査	県内の希少両生類の生息調査	1 回
	タダミハコネサンショウウオ調査	県内の両生類の生息調査	天候不良のため中止
連携調査	深海生物調査	ROV（水中探査機）による佐渡海峡深海生物調査（ふくしま海洋科学館との共同）	1 回
	福島潟いきものしらべ 水生生物観察会	NPO 法人ねっとわーく福島潟主催の自然観察会への講師派遣	1 回
	親子魚探検隊（五泉・新発田）	生物多様性保全ネットワーク新潟主催の自然観察会への講師派遣	2 回
	鵜屋野潟観察会	特定非営利法人新潟市湿地都市研究所主催の生きもの観察会への講師派遣	1 回
	水あぶり（関川）	タランベクラブ主催の自然観察会への講師派遣	1 回
生物調査	漂着混獲生物調査	県内の海岸に漂着または混獲された生物の調査	48 回

2 海洋・河川に生息する水生生物とその生息環境の展示及び飼育事業

【事業目的】

新潟の自然環境とそこに生息する水生生物の展示を基礎としながら、多種多様な環境の生物を展示し、各種体験型プログラムを実施することで、市民が海洋・河川や水生生物などに親しむ機会の充実などを図り、海洋・河川に関心を持つきっかけとなる機会を創出する。

【主な事業内容】

(1) 水生生物に関する知識の普及振興

※…ラムサール条約湿地都市連携事業

名称	プログラム	内容	実施日	参加者数
企画展示 (企画展示室)	※にいがたの潟と水生生物	新潟の潟とそこに生息する水生生物を題材として、一定の管理条件の下で取り扱う必要がある外来種などについて紹介した。	3/15～6/15	－
	SADO ～世界に誇る自然と文化～	佐渡の成り立ちや豊かな自然環境を紹介するとともに、水族館ならではの「水」をテーマとした展示を通じて、日本の縮図とも言われる佐渡について理解を深める機会とした。	7/18～2/23	－
	カマイルカレスキュー ～保護から放流までの活動記録～	令和 5 年 2 月 14 日に座礁したカマイルカの保護から治療、リハビリ、放流までの映像や実際に使用した道具などを紹介する。また、鯨類等のストランディング（座礁、漂着）について、水族館の活動と共に解説した。	3/14～6/14	開催中
企画展示 (企画展示室以外)	ミニ展示とぶよ はねるよ ミナミワトビペンギン	1990 年から今日に至るまでの新潟市水族館で飼育したミナミワトビペンギンを紹介した。	R6 10/18～5/23	－

企画展示 (企画展示室以外)	パネル展示 魚の耳石展	魚の耳石について理解を深めてもらい、研究における役割を知るとともに、家庭でも耳石を取り出せるように取り出し方の動画を流した。	12/20-4/24	—
	SNS フォトコンテスト受賞作品展	館内で撮影した写真を Web 上で公募し、年 2 回コンテストを実施した。受賞作品各 2 点計 4 点を館内及び Web 上で公開した。	募集期間 ① 9/13-10/31 ② 3/1~3/22	応募総数 110 点
いきもの 教室	さかなの解剖	魚の体の外側と内側の観察や生体観察を通じて、体のつくりとその働きについて理解を深めてもらった。	12/13	19 人
	ビーバーのうんちペーパーづくり	ビーバーの生態解説の後、うんちの観察やうんちを活用したペーパー作り体験を実施し、動物の生態や資源循環への理解を深める機会とした。	2/14	18 人
	ペンギンの体はどんな形？どんな色？	ペンギンの体の特徴やしぐさを学び、観察を通して理解を深めるとともに、ぬいぐるみに自由に色を塗って、自分だけのオリジナルペンギンづくりを楽しんだ。	1/31	11 人
障がい者 向け イベント	ドリームナイト・アット・ジ・アクアリウム	普段水族館を利用する機会の少ない障がいのある子どもとその家族等を閉館後の水族館へ招待し、周囲に気兼ねすることなく、安心して楽しいひとときを過ごしてもらった。	6/14	329 人
	ちょっと静かな水族館 サイレントウィーク	音に敏感な人も楽しめるよう、BGM やマイクを使った解説などを少なくし、いつもより静かな水族館で生き物や水の音などをじっくり観察できる環境を提供した。	3/9-15 (午後のみ)	—
ガイド ツアー	ナイトツアー	通常は観ることのできない閉館後の夜間に水槽を観察してもらい、昼間との比較を通じて、生き物の活動の違いや外観の変化などについて解説した。	8/29,8/30 9/5,9/6	71 人
	イルカバックヤードミニガイド	イルカのバックヤードやステージの見学を通して、普段は見ることのできない飼育の裏側を紹介するとともに、イルカの生態や行動の特徴についてわかりやすく解説した。	10/11,10/25 11/8,11/22	45 人
参加型 イベント	※にいがたフィールドガイド	にいがたフィールドを案内しながら解説を行い、地域の自然環境や希少生物の域外保全の取り組みについて紹介した。あわせて、ラムサール条約湿地都市認証制度について説明し、湿地保全の重要性への理解を深めてもらった。	4-10 月の第 3 土曜日 (8 月除く)、計 6 回	63 人
	企画展示 SADO ガイドツアー	演出や構成の都合で伝えきれなかった細かい部分や網羅しきれなかった内容を、展示を見ながら解説した。	8-2 月の第 1 土曜日、計 7 回	48 人
記念日 イベント	ペンギンの日イベント	ペンギンの生態や形態、野生の現状などを知ってもらうため、解説やパネル展示、バックヤードツアーを開催した。	4/19~5/23	—
	カワウソの日イベント	生き餌による給餌解説を行い、食性や生態への理解を促した。併せてカワウソ類のパネル展示や毛皮の体験、クイズを実施し、参加者に缶バッジを配布した。	5/24~6/29	—

(2) 水生生物の展示・飼育、収集

新・・・新規事業

区分	名称	内容	回数	参加人数
常設展示	飼育展示	600 種 20,000 点の魚類、海獣その他水生生物の飼育展示規模を維持した。	常設	—
常設解説	イルカショー	ショー形式で、イルカの認知、行動能力などを解説し、楽しく学べるプログラムを提供した。(約 15 分)	4～5 回/日	—
	マリンサファリ 給餌解説	トドやアザラシに餌を与えながら、体のつくりや生態について解説を行った。(約 10 分)	2 回/日	—
	ペンギン解説	ペンギンに餌を与えながら、分類や生態、生息地の環境について解説を行った。(約 15 分)	2 回/日	—
	日本海大水槽解説	大水槽の展示生物の紹介や海洋環境、水族館のしくみなどの解説を行った。(約 10 分)	1～2 回/日 (繁忙期を除く)	6,235 人
	磯のいきもの解説	磯の体験水槽で、生物の扱い方や、生息環境について、解説を交えながら実際に触れたり観察してもらった。(約 10 分)	1 回/日 (繁忙期を除く)	2,916 人
	アクアラボ体験	通常展示だけでは伝えきれない様々な生き物の生態などに関して、体験型プログラムで提供し、来館者へ発信した。(約 20 分)	1 回/日 (繁忙期を除く)	2,497 人
	飼水辺の小動物 解説	水辺の小動物で展示している生き物（アメリカビーバー、ユーラシアカワウソ、バイカルアザラシ、ウミガラス）について解説を行い、生態や形態の特徴、野生下での現状について知ってもらった。(約 10 分)	2 回/週	927 人

区分	名称	内容	回数
生物収集	水族館地先採集	アカモク、マヒトデ、マナマコなど	8 回
	出雲崎アマモ場採集	アマモ場生物	7 回
	新潟県内淡水生物採集	カジカ大卵型、アブラハヤ、タナゴ類等	17 回
	佐渡乗船採集	深海生物（エビカゴ漁）	1 回
	能生乗船採集	深海生物（ベニズワイガニ漁）	1 回
	新潟漁協乗船採集	アオリイカ、マアジ、カワハギなど（定置網）	2 回
	間瀬乗船採集	アカムツなど	2 回
	村上延縄乗船採集	アカムツ、アラなど	5 回
	新潟漁協新潟支所	メダマギンボ、ビクニン、コンペイトウなど	2 回
	新潟漁協西蒲支所	カイメン、キサongo、シマフグなど	7 回
	新潟漁協五十嵐浜支所	コウイカ卵、ヤドカリ類、モクズガニなど	12 回
	新潟漁協岩船港支所	クロヌタウナギ、アカシマモエビなど	3 回
	信濃川漁協	サケ卵、ダウリアチョウザメ	2 回

生物収集	寺泊漁協	コブダイ、ミズダコなど	2 回
	南浜支所	ヤナギダコ	1 回
	聖籠町漁協	アカマンジュウガニ	1 回
	佐渡内浦漁協	ワカメ種系	1 回
	柏崎漁協	ヒゲソリダイ	1 回
	内海府漁協	サドナデシコナマコ、イチゴカワリギンチャク	2 回
	富山県水産研究所	アカムツ	1 回
生物交換	名古屋港水族館	ガラルフア・イサゴビクニン・コンペイトウ	1 回
	上越市立水族博物館うみがたり	イサゴビクニン・ビクニンなど	1 回
	加茂水族館	スズメダイ、タナカゲンゲなど	1 回
	魚津水族館	ヒゲソリダイ、コブダイ、スズメダイなど	1 回
	江ノ島水族館	アラ・マダコ・ネコザメ	1 回
	ふくしま海洋科学館アクアマリンふくしま	クロヌタウナギ、ミズダコ、ベニクラゲなど	3 回
	男鹿水族館	イシダイ、ヒメタツなど	1 回
	NIFREL（ニフレル）	ツムギハゼ、キハツク、ミノカサゴなど	1 回
他園館からの 生物搬入	日立市かみね動物園	アメリカビーバー2 頭（譲受）	1 回
	東海大学海洋科学博物館	ブリ、カンパチ、カスミアジなど（譲受）	1 回
他園館等 への 生物搬出	しまね海洋館アクアス	アカムツ	1 回
	加茂水族館	ゴマフアザラシ 1 頭（ブリーディングローン）	1 回
	アドベンチャーワールド	カマイルカ 1 頭（ブリーディングローン）	1 回
	山形県米沢興譲館高校	キタノメダカ	1 回

収益事業

1 施設管理に付帯する事業

【事業目的】

施設利用者に対する利便性を図るため、レストラン及び売店、自動販売機等の設置。

【主な事業内容】

区分	場所	設置数
レストラン	本館 2 階	1 ヶ所
軽食売店	屋外、屋上 ※季節営業	2 ヶ所
移動販売車	アプローチ棟手前 ※季節営業	1 ヶ所
売店	アプローチ棟	1 ヶ所
自動販売機	館内各所	18 ヶ所
ロッカー	本館 1 階	1 ヶ所
記念メダル	本館 1 階	2 ヶ所
プリントシール機	水辺の小動物ゾーン	1 ヶ所
カプセルトイ（コイの餌）	屋外	1 ヶ所

新潟市水族館の指定管理者としての実施項目と達成状況及び
運営体制の充実を図るための取組

1 普及啓発、調査研究及び保護

実施項目	達成目標	実績	評価
常設解説	毎日実施	イルカショーなど毎日実施	達成
企画展示	年間 250 日以上	年間 311 日	達成
ガイドツアー	3 企画以上、年間 20 日以上	4 企画 21 日	達成
各種調査等	公開・公表、研究機関との共有	各種調査・研究を行い、研究発表を行うとともに、HP で公開した。	達成

2 生物の展示

実施項目	達成目標	実績	評価
魚類等の飼育展示	600 種 2 万点を超える水生生物の飼育・展示	通年平均で 600 種 2 万点を超える水生生物を飼育・展示	達成

3 年間入館者数など

実施項目	達成目標	実績	評価
年間入館者数	54 万人以上	549,298 人	達成
年間入館料収入	4 億 6,063 万 7 千円以上	4 億 8,097 万 6,572 円	達成
年間パスポート購入者数	1 万 4 千人以上	14,690 人	達成
年間パスポート所有者リピート数	年平均 7 回以上	6.1 回	未達成
ホームページと SNS の更新	合わせて週 7 回以上	週 10 回以上	達成

4 人材育成

実施項目	実績	評価
J A Z A や J A A などの会議・研究会へ参加	各種会議・研究会へ多数参加	達成
社内研修（職種別、階層別、共通）	アナウンス研修、薬品取扱講習、コンプライアンス研修、パワハラ研修など実施	達成
財団運営に必要な資格取得を推奨・促進	「資格取得者の助成要綱」の周知。資格取得者 3 名	達成

5 運営体制の充実及びガバナンス強化に関する取組

公益法人として適正かつ透明性の高い法人運営を図るため、理事会及び評議員会の適切な運営に努めている。

また、外部理事及び外部監事を選任し、公認会計士及び社会保険労務士としての専門的見地から意見・助言を定期的に受ける体制を整備している。

理事会資料については事前配布を行うとともに、必要に応じて理事会当日に個別説明を実施するなど、役員が適切に審議・判断できる環境整備に努めている。

さらに、コンプライアンス及び個人情報保護に関する規程等の整備を進め、コンプライアンス研修の実施など適正な業務執行及びリスク管理体制の強化を図った。